



受け忘れは 母子手帳チェック! ありませんか

保育所、幼稚園の入所・入園、就学のシーズンです。新年度に向けて育児休業から職場に復帰するママも多いのでは。予防接種は順調に進んでいますか? 受け忘れの予防接種がないか、母子健康手帳をチェックしましょう! (中部本社・吉浦雅子)



予防接種は順調ですか?
BCGなど数種類の予
防接種を受ける赤ちゃん

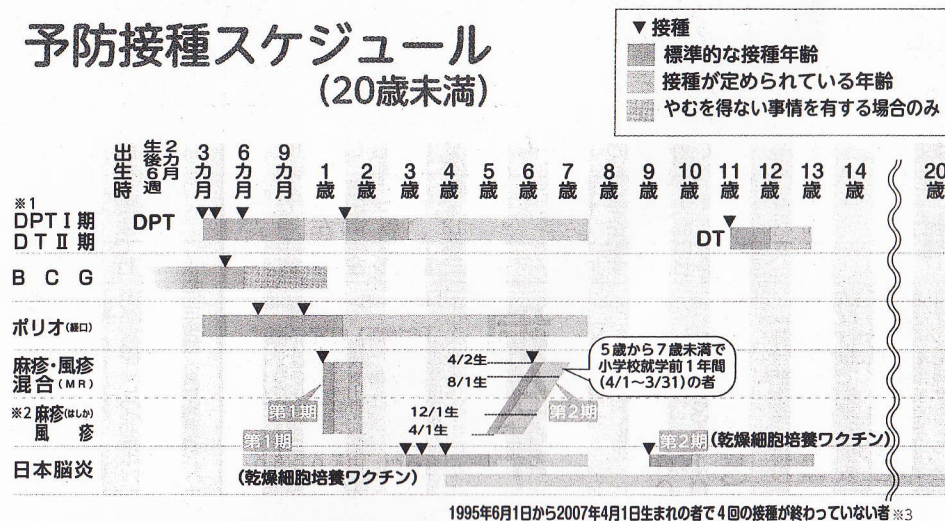
できるだけ早く

生後2カ月ごろから始まる予防接種。小児科医の松田龍医師「倉吉市新町3丁目」は「できるものからすみやかに接種した方がいい」とアドバイスする。ワクチンを接種しても体の中に抗体ができるまでに数週間かかるという。「(病気に)かかる前にしっかり抗体をつくっておく必要がある。対象年齢になったらできるだけ早く」とのこと。

時々耳にする「副反応」は、接種後に一時的に熱が出たり、皮膚が腫れたりすること。松田医師は、副反応のことを考えても、重い病気にかかるリスクを思えば予防接種は「受けた方がいい」と断言する。

それに「ひきこる」ことも、軽い風邪程度なら接種は受けてもいいことになっている」と、赤ちゃんの体調を知っておくこととともに「体調が心配な場合はかかりつけ医と相談することが大事」と話す。

予防接種スケジュール (20歳未満)



「定期」と「任意」

予防接種法が1994年に改正され、予防接種は「受けなければならない」「受けるように努力を」に変わり、保護者の判断に委ねられるようになった。

予防接種には、BCGやポリオなど感染力が強くて予防の必要性が高く、国が積極的に勧めている定期接種と、水ぼうそうやおたふくかぜなど希望者が受ける任意接種がある。定期接種は決められた期間内なら無料で受けられる。任意接種は基本的に自己負担だが、自治体によっては助成金が交付される場合もあり、要チェックだ。

任意接種についても松田医師は「重症化すると何日も保育所に行けなくなる。共働き夫婦が多い鳥取では経済的負担や損失を防ぐためにも接種した方がいい」と勧めている。

麻疹風疹の予防

妊婦がかかると生まれてくる子どもに影響がある風疹が近年全国的に大流行している。

国立感染症研究所感染症疫学センターは「1歳の誕生日に麻疹風疹混合ワクチンをアプレセントしましょう」と、続いて「小学校入学準備に2回目の麻疹風疹ワクチンを」と呼び掛けている。松田医師は「予防接種の種類は増えたが、以前とは違い、種類の違う予防接種を一度に受けられるようになった。何度も小児科に足を運ばなくてもよくなったというし、インターネットで母子健康手帳の管理もできるようになっている。子どもの様子を見ながらスケジュールを立てましょう」と呼び掛ける。

入所・入園、就学前にもう一度、母子健康手帳のチェックをしてみよう!